



「大規模地震等に対応した消防計画作成ガイドライン(一部改訂)」の概要について

消防庁予防課

はじめに

近年、超大規模化、超複雑化した防火対象物（以下「超大規模防火対象物等」という。詳しい定義は後述。）が出現している。超大規模防火対象物等の多くは、建物に不案内かつ多様な在館者が多数利用する大規模な集客施設となっており、火災時や地震時の安全性を確保するため、当該防火対象物におけるハード面の対策の状況に応じ、自衛消防組織の活動を特に有効に機能させることが必要となる。

このような状況を踏まえ、「超大規模防火対象物等に

おける自衛消防活動のあり方に関する検討部会」を開催し、その検討結果を踏まえ、ガイドライン（改訂版）をとりまとめたので、その概要を紹介させて頂く。

ガイドライン改訂内容

今回の改訂により、超大規模防火対象物等におけるシナリオ非提示型図上訓練の実施要領や訓練シナリオの例を追加している。シナリオ非提示型図上訓練のイメージについては下図を参照のこと。

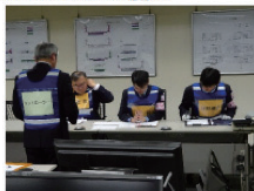
シナリオ非提示型図上訓練イメージ図（実証訓練結果）

参考1

検討部会におけるシナリオ非提示型図上訓練の実証結果

<空港>	<観覧場を含む多数集客施設群>	<超高層複合用途商業ビル>	<超高層複合用途駅ビル>
<p>○主なシナリオ</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日昼に震度5強の地震が発生 最初の地震から数十分後に震度6弱の地震が発生 火災やエレベーター閉じ込め事案の発生 大津波警報の発表 多数の避難者の発生 	<p>○主なシナリオ</p> <ul style="list-style-type: none"> 休日昼に震度5強の地震が発生 最初の地震から数十分後に震度6弱の地震が発生 ジェットコースターが地上80mの位置で緊急停止 火災が複数発生、負傷者多数発生 死者や多数の避難者の発生 	<p>○主なシナリオ</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日昼に震度5強の地震が発生 最初の地震から数十分後に震度6弱の地震が発生 スプリンクラー設備破損、補助散水栓ホース切断 超高層階で火災が発生 外国人がパニックを起こす 	<p>○主なシナリオ</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日昼に震度5強の地震が発生 最初の地震から数十分後に震度6強の地震が発生 スプリンクラー設備破損、補助散水栓ホース切断 超高層階で火災が発生 他の防災センター（駅部分）から災害情報等が共有
<p>○自衛消防組織の本部隊の能力の向上が期待できる事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 館内放送による在館者に対する一斉避難の抑制 防火区画閉鎖による水平方向避難誘導 大津波警報発表時の避難誘導 	<p>○自衛消防組織の本部隊の能力の向上が期待できる事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の集客施設の適切な管理 複数の自衛消防隊の連携 館内放送及び大型ビジョンを活用した避難誘導 	<p>○自衛消防組織の本部隊の能力の向上が期待できる事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難指示指定階以外に対する一斉避難の抑制 消防用設備等破損等のアクセシブル発生時の対応 外国人来館者に対する避難誘導 	<p>○自衛消防組織の本部隊の能力の向上が期待できる事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 高層フロアにある副防災センターや他の防災センター（駅部分）との連携 低層、高層の多数の避難者の迅速かつ安全な避難誘導
<p>○更なる工夫が必要である点</p> <ul style="list-style-type: none"> 想定難易度が低かったため、「複数の場所で自動火災報知設備の感知器が発報しており火災の発生場所が特定できない」など、シビアな想定を複数盛り込む。 外国人、障害者対応を入れ、災害情報の伝達要領や個別対応要領を加える。 	<p>○更なる工夫が必要である点</p> <ul style="list-style-type: none"> 想定付与の情報をホワイトボード等に記載するようにする。 訓練施設の図面や自衛消防隊員の人数等をホワイトボード等に表示し、対応状況を把握できる手法を用意する。 	<p>○更なる工夫が必要である点</p> <ul style="list-style-type: none"> 一つの想定付与に対して、どこまで答えて良いのか悩む場面があり、対応を回答するための一定の基準を用意する。 	<p>○更なる工夫が必要である点</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震により計画上の避難通路が使用不可となる想定を盛り込む。 ブラックアウトなどインフラが切断される想定を盛り込む。 不特定多数の施設利用者の避難誘導に関して、特に超高層階からの避難誘導が円滑に実施できるか、引き続き、施設関係者間で協議。

○実証訓練の実施風景



○実証訓練の実施風景



○実証訓練の実施風景



○実証訓練の実施風景





また、超大規模防火対象物等における課題や課題解決に向けた先進的な事例等の追加や大規模防火対象物の防火安全対策のあり方に関する検討部会報告書（平成24年2月消防庁）等の過去の関連する検討結果の反映を行っている。

主な概要としては、複数の防災センターへの対策や、自衛消防活動で特に重要な対応行動の明確化等、大規模な防火対象物の多くに共通する事項を加えているため、超大規模防火対象物等に限らず、自衛消防組織の設置義務が生じる防火対象物等の関係者や指導にあたる消防職員は参考にして頂きたい。当ガイドラインの詳細については「大規模地震等に対応した消防計画作成ガイドラインの改訂について」（平成31年3月22日消防予第96号）を参照頂きたい。（URL:https://www.fdma.go.jp/singi_kento/kento/items45787/jieishobo3_3.pdf）

消防機関におかれても超大規模防火対象物等の特性を踏まえ、当報告書や当ガイドライン等を参考にして、有効な指導を講じて頂きたい。

おわりに

検討部会報告書の末尾には、今後の取組という項目を設け、この超大規模防火対象物等について、より効果的な施策推進のために、3つの提案がされている。

- ① 消防機関において、改訂したガイドラインを超大規模防火対象物等の施設関係者に周知して、本検討部会でとりまとめた訓練の充実・強化方策を取り入れた訓練の実施を促進することが望ましい。
- ② 超大規模防火対象物等における訓練の充実・強化に向けた取組を促進するうえで、知見や実績がある団体等において、改訂したガイドラインのポイントを分かり易く解説したマニュアルを作成するとともに、訓練のシナリオ作成や訓練時の想定付与といった訓練の実施を支援する取組が行われることが望ましい。
- ③ 消防庁において、実証訓練の結果を踏まえ課題としてあげられた、高さが200m以上の超大規模防火対象物における、火災や地震時の大人数の避難者の適切な誘導について、当該防火対象物の防火・防災上の特性等を踏まえて、その効性を確認する手法を検討することが望ましい。

これらの意見を踏まえ消防庁としても、シナリオ非掲示型図上訓練の実施要領を施設関係者向けに分かりやすく解説したリーフレットを作成するなど、改訂したガイドラインの普及推進を図るとともに、有識者等から挙げられた意見について積極的に取り組んでいく予定である。

問い合わせ先

消防庁消防庁予防課
TEL: 03-5253-7523